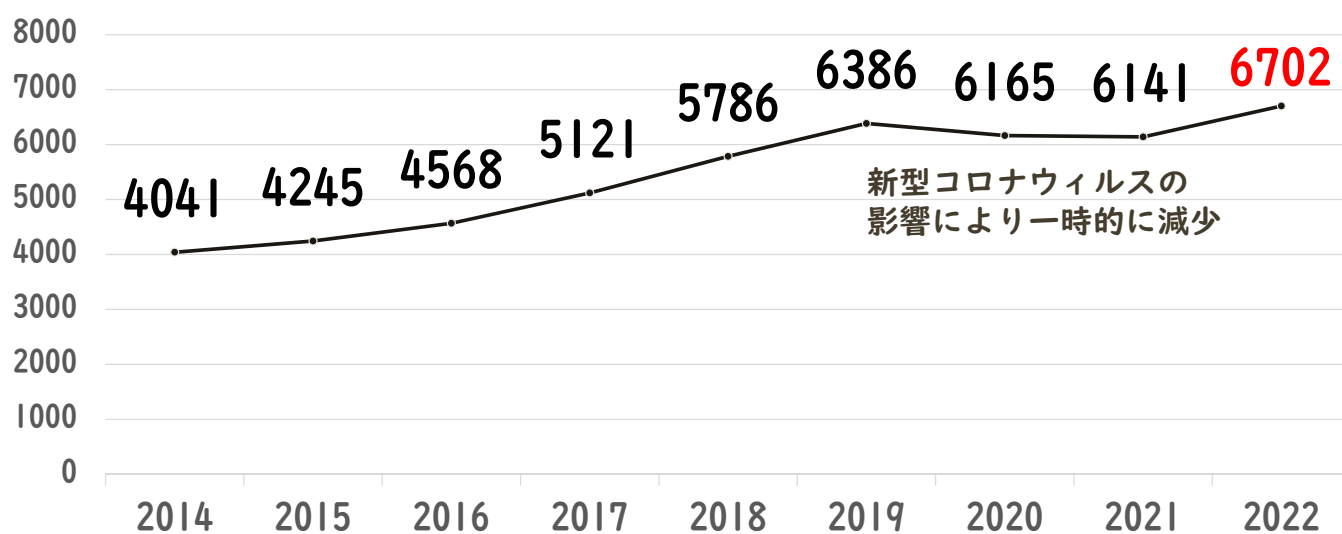


人材育成を通じた 空白地域解消事例

石塚 ゆかり 青森大学日本語教育センター長
総合経営学部准教授

三上 牧子 公益社団法人青森県観光国際交流機構
国際交流グループ

青森県内の在留外国人の推移



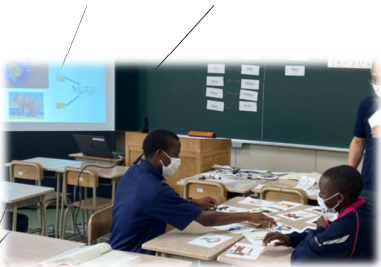
法務省（2022年12月）データ

青森県内の在留外国人人数

法務省（2022年12月）

国籍別		
順位	国・地域名	人数
1	ベトナム	2102人
2	中国	949人
3	フィリピン	864人
4	韓国	688人
5	アメリカ	399人
6	インドネシア	355人
7	ミャンマー	165人
8	カンボジア	161人
9	ネパール	131人
10	タイ	112人

在留資格別		
順位	国・地域名	人数
1	技能実習	2363人
2	永住者	1222人
3	特定技能	684人
4	特別永住者	503人
5	留学	364人
6	日本人の配偶者等	350人
7	技術・人文知識・国際業務	310人
8	家族滞在	201人



青森大学×青森県観光国際交流機構 人材育成の取り組み 『実践の場』で『協働的な学び』を

①

青森大学日本語教員養成プログラム

日本語教師として
日本語教育機関で教える

【正規学部生・科目等履修】
青森大学で実施

②

青森県日本語指導 サポーター養成講座

地域で日本語を教えて
外国人の暮らしをサポートする

【聴講生】
青森大学で実施

③

青森県日本語 パートナー養成講座

日本語でつながって
外国人に寄り添う

【一般】
各市町村で実施

④ 交流型日本語教室の実施・人材育成の場としても活用

青森県の人材育成に向けた取り組み

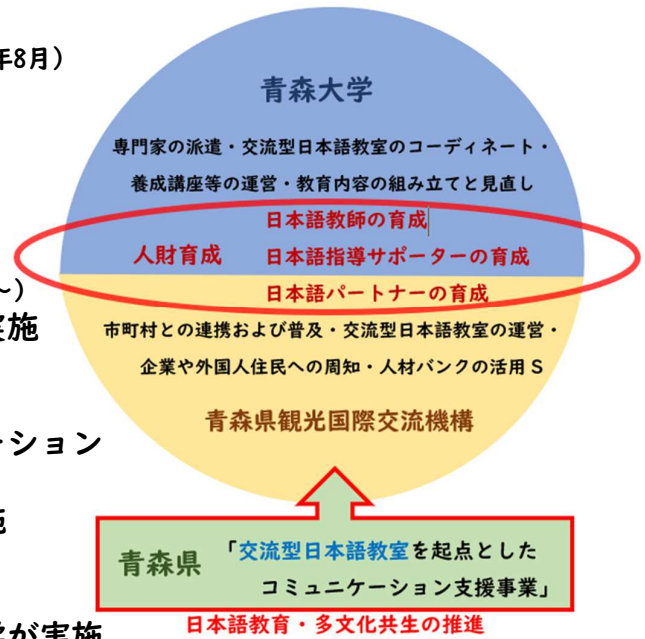
①青森大学と青森県国際交流協会との連携協定締結（2018年8月）
（現：青森県観光国際交流機構）

②青森大学日本語教員養成プログラムの開設（2019年4月～）
日本語教師養成課程として青森大学が独自で実施

③青森県日本語指導サポーター養成講座の開設（2019年4月～）
青森県国際交流協会からの委託を受けて青森大学が実施
青森大学が聴講制度を活用して実施（2022年度～現在）

④青森県で「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション
支援事業」スタート（2021年4月～）
県からの委託を受けて青森県観光国際交流機構が実施

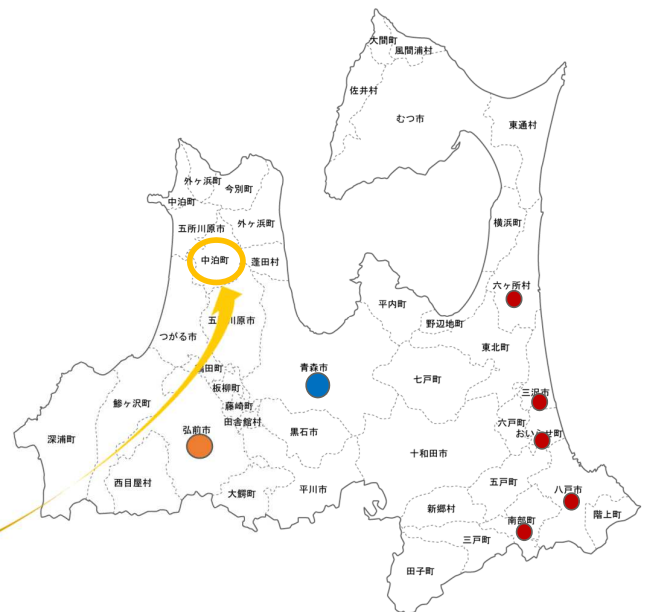
⑤日本語パートナー養成講座開設（2022年4月～）
青森県観光国際交流機構からの委託を受けて青森大学が実施



青森県内の日本語教室

- ①青森日本語クラブ（青森市）
- ②日本語学習支援「青い森」（青森市）
- ③国際文化交流クラブ（青森市）
- ④一般社団法人国際にほんご教育センター（弘前市）
- ⑤弘前日本語ティールーム（弘前市）
- ⑥弘前日本語クラブ（弘前市）
- ⑦NPO法人みちのく国際日本語教育センター（八戸市）
- ⑧みさわ国際交流協会（三沢市）
- ⑨NPO法人たすけあいさわやか青森（おいらせ町）
- ⑩国際教育研修センター日本語教室（六ヶ所村）
- ⑪南部町にちようべんきょうかい（南部町）
- ⑫中泊町日本語教室（中泊町） ➡空白地域モデル

8市町村（全40市町村）に
12か所



①青森大学日本語教員養成プログラム

- 2019年4月より日本語教員養成プログラムを開設。
- 学部横断型プログラムとして**正規学部生**を主な対象とする。
- **科目等履修生**も受入れ。
- 文化庁「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」に示された50の必須の教育内容をすべて含む。
- 教育実習や学内の日本語支援体制を充実させ、実践力を身につける。



②青森県日本語指導サポーター養成講座

- 2019年より3年間で**100名**の「青森県日本語指導サポーター」の**登録**を目指してスタート
- 「青森大学日本語教員養成プログラム」の科目を一部公開する形で実施（現在も継続中）
- 講座内容
 - ①日本語研究A 全24時間（90分×16回）
「地域日本語教育とは」「こどもの日本語」
「言語政策」「日本語教育の文法」など
 - ②日本語研究B 全24時間（90分×16回）
「日本語の教え方」「教案作成」「模擬実習」など
- ブラッシュアップ講座(年2回)やシンポジウムを定期的実施

116名が登録
(4年間の合計)
2023年は20名が受講中

日本語指導サポーターとは？

①「交流型日本語教室」等の地域の日本語教室において、外国人住民に対して地域住民と円滑にコミュニケーションができるよう**日本語の指導**を行い、地域の一員として青森の地で安心して暮らせるようにサポートする。

②日本語指導が必要な児童生徒が在籍する県内の小・中・高等学校において、対象児童生徒が日本語で教科学習に参加できるように**教員の指示のもと日本語の支援**を行い、学校生活を安心して送れるようにサポートする。



③青森県日本語パートナー養成講座

現在36名の登録
(1年半の合計)

● 日本語パートナーとは？

外国人住民と**日本語で対話による交流を行う**日本語学習支援者のこと

● 対話のコツ

- (1) 交流のパートナー（聞き役）になること
- (2) 相手や相手の国に興味を持ち、心から知りたいと思うこと
- (3) 相手が言いたいことを理解しようとする
- (4) 相手が言いたいことを「やさしい日本語」でまとめること

● 2022年より中泊町、青森市、南部町で実施

④ 交流型日本語教室

【目的】

・青森県に暮らす外国人住民と地域住民とが繋がりをもって、日常生活や社会生活ができるようにする。

・安心して暮らせる地域社会づくりを推進するために、お互いが**対等な関係**のもとで、**対話による交流**を通して信頼関係を深める。

2022年度			
地域	回数	学習者数	サポーター数
青森市	6回	86	63
弘前市	5回	25	55
中泊町	8回	77	68
三沢市	2回	26	24
オンライン	7回	30	24
計	28	244	234

2023年(9月末現在)			
地域	回数	学習者数	サポーター数
青森市	1回	26	21
弘前市	1回	12	29
中泊町	6回	49	53
三沢市(南部町)	1回	5	10
オンライン	10回	54	50
計	19	146	163

青森県日本語指導サポーター養成講座 (青森大学日本語教員養成プログラムの一部) & 交流型日本語教室

日時 令和5年5月20日(土) 第1日目
場所 青森市 メモリアルシップ八甲田丸

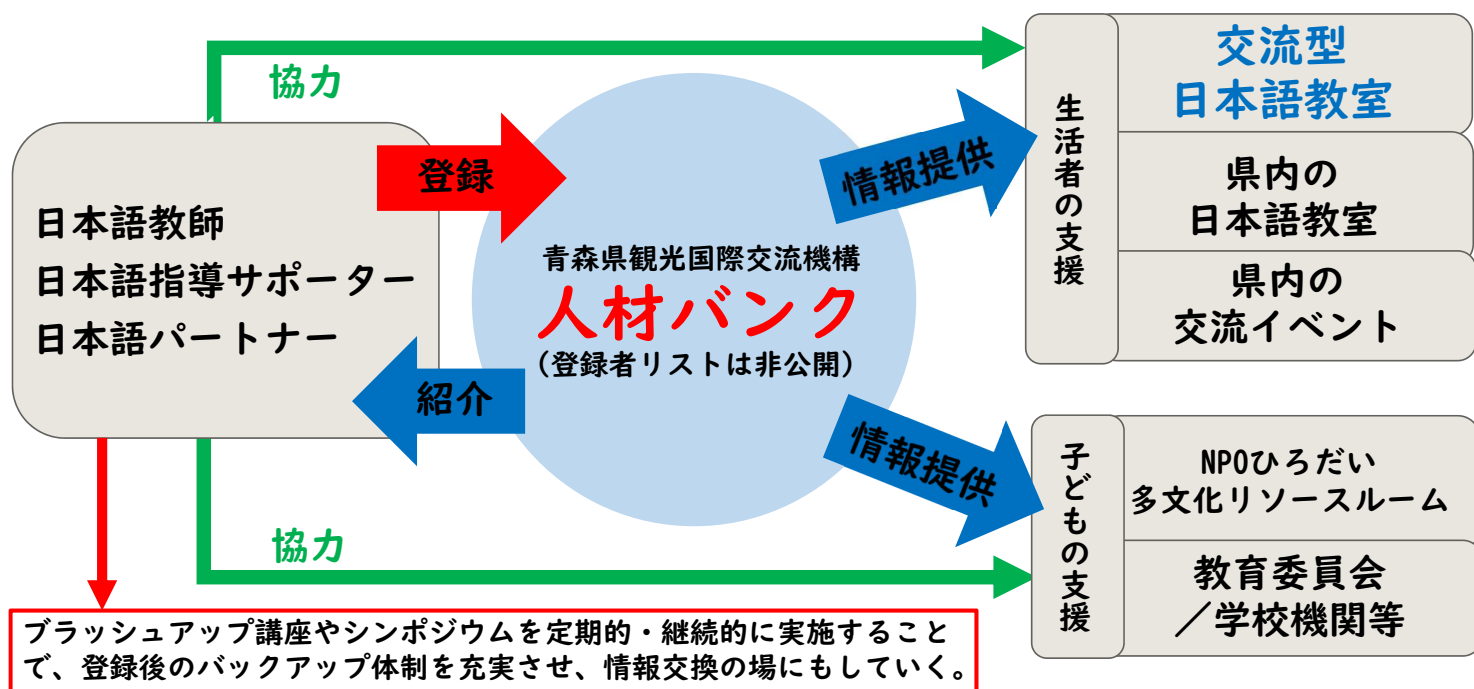


青森県日本語パートナー養成講座 & 交流型日本語教室 南部町(三沢圏域)

日時 令和5年8月26日(土)・27日(日)
場所 南部町 国際交流センター



多文化共生の実現に向けた人材活用の取り組み



交流型日本語教室 中泊町

月1回開催：
4/21(金)、5/26(金)、6/23(金)、7/21(金)、8/18(金)、9/15(金)



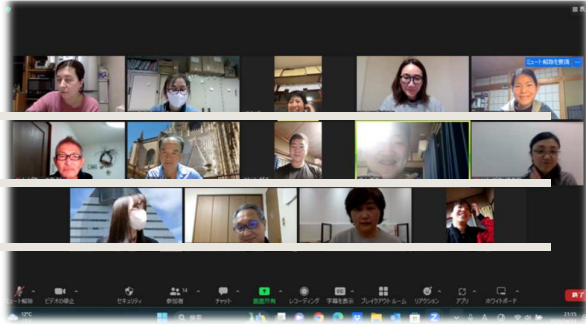
交流型日本語教室 弘前市

日時 令和5年9月20日(水)
場所 弘前市立中央公民館





交流型日本語教室 オンライン


「にほんごカフェ オンライン」月2回開催：
4/13・27、5/11・25、6/8・22、7/6・20、8/10・24、9/7・21
「にほんごカフェ in 青森大学」を対面で開催：10/1



Q 2023年 3月22日 ニュピの日。 ※ヒンドゥー教の新年
インドネシア バリ島で してはいけないこ
とは 何? **NG**

① 家から 出ては いけない 

② ごはんを ^た 食べては いけない 

③ 寝ては いけない 



青森県における人材育成のポイント

『実践の場』で『協働的な学び』を実現するために

- ①外国人住民とつながる場で自ら「**実践の経験**」を重ねることができる「**しくみ**」を作る。
→達成感を引き出す
- ②空白地域だからできることを探し、対話を促進する「**しかけ**」を作る。
→可能性を引き出す
- ③成長できる「**学びの場**」を作り、育成した人材のモチベーションを「**しげき**」する。
→好奇心を引き出す

今後の課題

- ①複数団体が連携して行う際の**業務分担**を明確にする（事前打合せや振り返りが重要）
- ②新しい活動の方向性を探る（地域のニーズを把握する、講座や教室のマンネリ化を防ぐ）